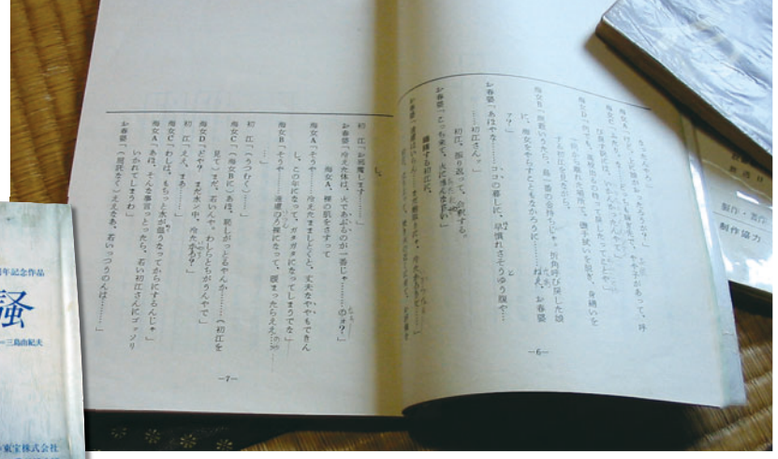
6 海女と文芸

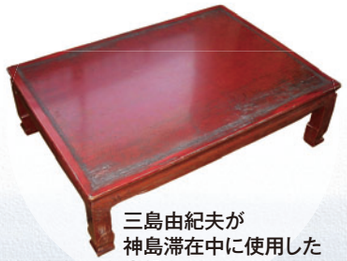
白い磯着に身を包み、海に潜る海女。海に生きる女性の
たくましくもありまた健気な姿や、謎めいた生きざまをモチーフに、
古くからさまざまな文芸作品にとりあげられています。



映画「潮騒」第５作 台本
（主演：堀ちえみ）
新人海女の初江と先輩海女たちとの会話の部分に、地元の方言を指摘した書き込みが見えます。

神島を舞台にした 海女と漁師の純愛物語 「潮騒」

三島由紀夫



三島由紀夫が 神島滞在中に使用した 座机
当時の漁業組合長宅に大切に保存されています。

作家・三島由紀夫は昭和28年の３月と８月に鳥羽市の神島を訪問し、当時の漁業組合長宅に逗留しました。その直後の９月から執筆を始めたのが小説「潮騒」です。

小説での島の名前は歌島。18歳の漁師・新治は、ある日、浜で見知らぬ少女に出会いました。彼女は船主の宮田照吉の末娘で、名前は初江。兄が早世したので町から戻り、婿を迎えて跡継ぎになることになり、海女として漁に出ていたのでした。若い二人はたちまち恋に落ちましたが、逢えるのは休漁の日だけ。島にある軍の施設であった監的哨跡（かんてきしょうあと）で会っている二人の姿が目撃され、島中に噂が広がり、新治と初江の仲は照吉によって引き裂かれてしまいます。そんなある日、照吉の船に新治が甲板見習として乗り込むことになりました。しかし台風に巻き込まれ、船を結ぶワイヤーが切れてしまいます。初江は島の神社に、嵐でずぶ濡れになりながらも、船の無事を必死に祈りました。新治は危険を顧みず海に飛び込みましたが、初江の祈りが通じたのかこの難を乗り越えます。島に帰ると、照吉は娘の婿を新治と決めていました。新治が見所のある男かを見極めるために船に乗せたのでした。

若い無邪気な二人が、いくつもの障害や不運を乗り越え、恋が成就するまでを描いたこの小説は評判になり、翌年には映画化されます。この時の初江役は青山京子。そしてそれから10年後の昭和39年には、吉永小百合と浜田光夫の主演でリメイクされ、小百合演じるさわやかな海女のイメージが全国的に広がりました。さらに、その後も小野里みどり、山口百恵、堀ちえみをヒロインに、いずれも神島でロケが行われ、島の海女の暮らしがいきいきと描かれました。

神島には近年ハイキングコースが整備され、港から八代神社、灯台、監的哨跡、ニワの浜、古里の浜など、潮騒ゆかりの場所を１時間ほどで歩くことができます。

映画「潮騒」全５作品のポスター
昭和29年の第１作から昭和60年の第５作まで、時の人気女優や歌手が海女の姿になってスクリーンに登場しました。

第２作のロケでの島民との記念写真
昭和39年の第２作で出演者やスタッフ、島の人たちとの記念の一枚です。